

第 37 回子ども・子育て会議の意見について

【会議でのご意見】

1. 地域で活動している NPO とか地域のお母さんたちが運営している居場所事業とか、そこに目を向け、地域の資源として活用していくことなどを書いて欲しい。
2. 子育て家庭への支援の充実というところのどこかに、地域の子育て支援の団体とか NPO とかの連携とかネットワークづくりといったことを入れていただいて、地域のお母さんたちがより第 3 の居場所を利用しやすくなるような計画を検討いただきたい。

→文言を修正しました。

修正前（55 ページ）	修正後（54 ページ）
生まれ育った家庭の経済事情等でこどもの将来が左右されず、また、貧困の連鎖を断ち切れるよう、教育・学習支援や保護者への就労の支援、生活の支援、経済的支援を進めます。	生まれ育った家庭の経済事情等でこどもの将来が左右されず、また、貧困の連鎖を断ち切れるよう、教育・学習支援や保護者への就労の支援、生活の支援、経済的支援を進めます。 <u>町、民生委員・児童委員、社会福祉協議会、こどもとその家族を支える NPO 法人や地域の運営団体等との連携を強化し、孤立や潜在化している困難を抱える家庭や、複雑化した問題や多問題を抱える家庭に対し、つながりをつくり、その家庭にあった支援を実施していきます。</u>

3. 子どもの貧困対策と権利擁護のところで、法律的によく使われてるのは承知しているが、貧困や生きづらさを抱えている本当に大変な子どもたちにとって「健やかな」とか「健全な」という言葉が、かえって苦しさになってしまうのではないか。

→文言を修正しました。

修正前（56 ページ）	修正後（55 ページ）
○ <u>こどもたちの健全な育成を支援し、こどもの医療費にかかる養育者の負担軽減を図るため、「子ども医療費助成」として、町内に居住し、健康保険に加入している 0 歳から高校 3 年生相当年齢のこどもの通院・入院にかかる医療費を助成します。</u>	○ こどもの医療費にかかる養育者の負担軽減を図るため、「子ども医療費助成」として、町内に居住し、健康保険に加入している 0 歳から高校 3 年生相当年齢のこどもの通院・入院にかかる医療費を助成します。
○ <u>家庭等における生活の安定に寄与するとともに、次代の社会を担う児童の健やかな成長に資することを目的に、全てのこどもの育ちを支える基礎的な経済支援として児童手当を支給します。</u>	○ 全てのこどもの育ちを支える基礎的な経済支援として児童手当を支給します。

4. 55 ページの下、1 つの事業所名が出てるが、こども食堂に食材を提供しているのはそこだけではなく、いくつかの中間支援組織があるので、一つの事業所を特出しするのはどうか。

→文言を修正しました。

修正前 (55 ページ)	修正後 (54 ページ)
○ 「フードバンクかながわ」からの提供食品の利用など、こども食堂への支援を行います。	○ <u>フードバンク等</u> からの提供食品の利用など、こども食堂への支援を行います。

5. ヤングケアラーは背景に様々な要因が含まれていますので、生活支援のところだけではなく、違うところになるのでは。

→おっしゃるとおりヤングケアラーは様々な背景が要因にあり、貧困対策の中の生活支援や地域社会の理解の促進には収まらない問題だと認識しているところではあります。計画の文言上はこのままの位置づけとさせていただきたいと思いますが、56 ページ、こどもの権利擁護の保障のところでの、(1) 児童虐待の発生予防・早期発見・支援や(2) こどもや若者を包括的かつ迅速・的確に支援する関係機関との連携、(3) こどもや若者の意見の尊重と支援の充実にも含まれてくる問題だと考えております。

6. 58 ページの、「こどもや若者の自己選択・自己決定・自己実現を社会全体で後押しする」という表現があるが、逆にこどもの自己責任を押しつけることになるのではないかと。社会全体で後押しするための支援ではなくて社会全体でそっと応援する環境づくりとか、もう少し表現が加わった方がいいのでは。

7. 58 ページ、「社会の一員としてのその次の民主主義の担い手を育成するため」とありますが、私たちはこういうことをやってるわけではない。社会全体でこどもを育てるのは、社会のためにこどもを育てているのではなくて、こどもを真ん中に置いて、みんなで育てていこうということであり、それは民主主義の担い手を育てるためにやってるわけではない。

→まだ私たち自身が、国の文章をそのまま引用したり、葉山町としての計画に落としきれてない部分が、正直あるかと思います。今期だけでなく、また若者の意見を聴取したりして、中間見直しや次期計画の中で、しっかり落とし込んでいけるような計画にしていきたいと思っています。

8. 不登校のことが出てこなかったように思うのですが、そこは管轄外という考えなのか、

→不登校の方も含めた形で、地域の居場所ということを考えていきたいというところなんです。不登校の方の居場所とか、不登校の方とかその他の方が相談しやすい場所を確保するとか、そういったアプローチが私たちのミッションになるのかなと思っています。もちろん学校との連携はさせていただいていますが、学校で過ごす時間以外の場所でのアプローチ、施策について書いています。

9. 基本理念、前回の計画と同じだが、今回の計画は若者などが含まれているので、若者の人たちの部分を表現として入れたほうが、新たな計画の体制になっていくのでは。

→文言を修正しました。

修正前 (27 ページ)	修正後 (19 ページ)
のびのび育て葉山の子 ―地域ぐるみで元気な親子をはぐくむまち葉山―	のびのび育て葉山の子 ― <u>こども・若者が笑顔にあふれ、地域で子育てを支えあうまち 葉山</u> ―

10. 親子関係形成支援という子育て家庭への支援のことで「八策」が挙げられているが、世の中にはたくさん子育て支援の方法、虐待防止のプログラムがあり、それぞれの施設でそれぞれやっているの、葉山町はこれです、と言われると少し疑問符が出てしまう。なぜこれを選んだのか。

→文言を修正しました。

修正前（50 ページ）	修正後（19 ページ）
本町では、これに該当する事業として年 2 回程度「そだちの八策講座」を実施しており、今後も継続していきます。	本町では、 <u>こども家庭センター</u> と子育て支援センターでこれに該当する事業を年 2 回程度実施しており、 <u>おり</u> 、今後も継続していきます。

11. ひらがなの「こ」と漢字の「子」と混在しているので、根拠は説明した方がいい。

→目次のうらに「「こども」表記について」記載させていただきました。

12. 34 ページ等「アンケート調査から」と書いてあるが、どこのアンケート調査からか分からないので、その出典を明確に。

→「子ども・子育てに関するアンケート調査から」等、修正しました。

【会議後のご意見】

13. 第 2 章で各事業の実績、第 4 章で各事業のこれからの展開について書いてあるが、実績も第 4 章にまとめてしまった方が見やすくなるのでは。

→まとめました。